

がん予防のススメ Vol.12

皮膚有棘細胞がん 紫外線と 上手に付き合おう



徳島大学病院皮膚科 講師
村尾 和俊 氏

皮膚には他の臓器同様に様々ながんができます。最も多い皮膚がんの一つが有棘細胞がんで、その発症には紫外線が誘因になることが知られています。

太陽の光のもとで活動するととても気持ちいいものですし、紫外線には体に必要なビタミンを作る働きもあります。しかし、紫外線には特定の遺伝子に傷をつけたり、皮膚の免疫を低下させる事もあるため、長期にわたって、過剰に紫外線を浴びると有棘細胞がんなどの皮膚がんを誘発する可能性があります。

有棘細胞がんは主に手術によって治療します。早期に発見できれば多くの場合根治することが可能です。皮膚がんのリスクを減らすためには、サンスクリーンなどを使い、上手に紫外線とつきあうことが大切です。



徳島大学病院がん診療連携センター

お問い合わせ

■徳島大学病院: Tel.088-631-3111
■がん診療連携センター: Tel.088-633-7312
■徳島がん対策センター相談窓口: Tel.088-633-9438